

科目名	法学 I	担当者	三隅 諒	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
予め授業スライドを配布し、スライドに基づいて授業を行う。手元でスライドを閲覧できるようにしておくことが望ましい。講義中、スライド以外の資料やWebサイトを参照することがあり、その場合は適宜スクリーンに投影する。また、復習用に課題を出すことがあり、その際は次の授業の冒頭で解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	復習用に出した課題のうち、参考となるものについては、講義中で共有して紹介する。人数やテーマによっては、授業内でアンケートを行うことも考えている。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)

ルーブリック評価項目の内容	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	論理的・批判的思考力	問題発見・解決力	挑戦力	コミュニケーション力	リーダーシップ・協働力	省察力
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
① 法の社会における機能を説明することができる。【知識】	1				1			
② 法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】	1				1			
③ 法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】	1				1			
④ 日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】	1				1			
⑤ 法解釈の技法について説明することができる。【知識】	1				1			
⑥ 法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べる。【態度・習慣】	1				1			
⑦								
⑧								
⑨								
⑩								

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)	
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験/授業内試験)	授業内試験により, 到達目標①②③④⑤の基礎知識が理解ができているか, 到達目標⑥の基本的態度・習慣が身についているかを評価する。	10	10	10	20	20	30						100
小テスト等													
レポート等													
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)		10	10	10	20	20	30						100

【課題に対するフィードバックの方法】
 Google Classroom上にてコメント付きのファイルを返却するか, 又はコメントを直接入力する。メールでの質問にはメールで回答する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法を学ぼう	三上威彦ほか	信山社	2020	教科書	必携
法を学ぶ人のための文章作法 [第2版]	井田良ほか	有斐閣	2019	参考書	推奨
カフェパウゼで法学を 対話で見つける 〈学び方〉	横田明美	弘文堂	2018	参考書	推奨
学生生活の法学入門	山下純司ほか	弘文堂	2019	教科書	任意
大学生活と法学	江藤祥平ほか	有斐閣	2022	教科書	任意
備考	「必携」の指定は” MyKITS” で購入できるようにするための便宜であり, すべて揃える必要はない (詳細は初回に説明する)				

【オフィスアワー】
 月曜10:30~12:30 (休暇中を除く) 可能な限り, 事前にアポを取ること (misumi.ryo@nihon-u.ac.jp) 研究室 (9号館2階)

【実務経験を活かした実践的教育について】	
担当教員の実務経験の有無	無 実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
1	法学とは	法学とは何かについて、簡単な事例問題に対するアプローチを見ながら、イメージを修得する。担当者の関心上、実社会で現在通用している法律を、どのように使いこなすかということを重点的に学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、法学（特に実定法）を学ぶことのイメージを習得する。	
	事前学修	シラバスと授業スライドを熟読する。なお、教科書の購入については初回スライドのなかで説明するので、購入前に必ず授業スライドを見ること。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読み、講義内容をまとめておく。教科書を（わからないところがあってもいいので）一読してみる。	120分
2	刑法①—基礎知識	法解釈の技法を学ぶ一助として、犯罪論の基本的な考え方を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関して、犯罪の成否に関する基本的な考え方を理解する。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読する。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えてみる。	120分
3	刑法②—判例の読み方・文書の書き方	法解釈の技法を学ぶ一助として、判例の読み方や調査方法を修得するとともに、法的文書の基本的な書き方を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①③⑤⑥に関して、判例を自力で調査して読解できるようになるとともに、犯罪の成否が問題となる基本的な事例を、法的な思考手順に即して処理し、言語で表現できる。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読する。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えてみる。	120分
4	刑法③—課題解説・文献の調べ方	法解釈の技法を学ぶ一助として、法学に関する専門的文献の読み方や調査方法を修得するとともに、法的文書の基本的な書き方を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①③⑤⑥に関して、文献を自力で調査して読解できるようになるとともに、犯罪の成否が問題となる基本的な事例を、法的な思考手順に即して処理し、言語で表現できる。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読する。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えてみる。	120分
5	民法①—契約	法解釈の技法を学び、かつ法分野ごとの考え方の差異を理解するため、民事法のうち契約法に関する基本的な考え方を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関して、契約に関する基本的な考え方を理解する。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読する。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えてみる。	120分
6	民法②—物権・不法行為	法解釈の技法を学び、かつ法分野ごとの考え方の差異を理解するため、民法のうち不法行為法と物権法に関する基本的な考え方を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関して、不法行為と物権に関する基本的な考え方を理解する。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読する。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
7	民事手続①	法曹三者の役割を修得するとともに、実体法と手続法の差異を理解し、手続法の固有の発想を学ぶため、主として民事手続の作用に関する基本的な考え方を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関して、法曹三者の役割や、民事手続の作用に関する基本的な考え方を理解する。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読する。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えてみる。	120分
8	民事手続②	実体法と手続法の差異を理解し、手続法の固有の発想を学ぶため、民事手続のうち民事訴訟の手続・執行・保全に関する基本的な考え方を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①④⑤に関して、民事手続のうち民事訴訟の手続・執行・保全に関する基本的な考え方を理解する。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読する。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えてみる。	120分
9	刑事手続①	法曹三者の役割を修得するとともに、実体法と手続法の差異を理解し、手続法の固有の発想を学ぶため、刑事手続のうち捜査に関する基本的な考え方を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①④⑤に関して、法曹三者の役割や、刑事手続のうち捜査に関する基本的な考え方を理解する。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読する。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えてみる。	120分
10	刑事手続②	実体法と手続法の差異を理解し、手続法の固有の発想を学ぶため、刑事手続のうち起訴・公判・刑の執行に関する基本的な考え方を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①④⑤に関して、刑事訴訟のうち起訴・公判・刑の執行に関する基本的な考え方を理解する。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読する。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えてみる。	120分
11	公法①	日本の法制度の理解、及び法解釈の技法を学ぶ一助として、憲法における人権論に関する基本的な考え方を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関して、憲法における人権論に関する基本的な考え方を理解する。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読する。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えてみる。	120分
12	公法②	日本の法制度の理解、及び法解釈の技法を学ぶ一助として、憲法における統治機構や行政法の基本的な考え方を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関して、憲法における統治機構や行政法の基本的な考え方を理解する。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読する。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所を読んで、講義内容をまとめておく。また、復習用の課題について、余力の限りで考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
13	法の基礎理論	法の存在形式や一般法と特別法の関係、判例の法諺性、法の役割と隣接領域との違いについて、前回までの学習も踏まえて理解を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、法の存在形式や一般法と特別法の関係、判例の法諺性、法の役割と隣接領域との違いを理解する。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、教科書の該当箇所を一読する。	120分
	事後学修	授業スライドを再度読むとともに、教科書の該当箇所を読んで、講義内容をまとめておく。	120分
14	授業内試験・解説	授業内試験を行う。やや時間を開けて、試験の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関して、法学を学ぶ上で必要な知識を整理する。	
	事前学修	試験勉強として、これまでの授業スライドや教科書を熟読する。	120分
	事後学修	授業スライド（試験の解説・採点基準）を読み込むと共に、出題箇所の講義スライドや教科書を読んで、講義内容をまとめる。	120分
15	講評・まとめ	授業内試験の講評を行うとともに、講義全体のまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関して、法学を学ぶ上で必要な知識を整理する。	
	事前学修	授業スライドを熟読する。余力があれば、これまでの授業スライドも見返してみる。	120分
	事後学修	講評の内容を自分なりにまとめる。余力があれば、教科書をひとつ長期休暇中に通読してみる。	120分